

令和3年3月3日

草津市議会議長 西田 剛 様

草津市議会会派 市民派クラブ

会長 奥村 恭弘

草津市議会 市民派クラブの令和2年度政務活動費実施研修（会派研修）の結果について、下記のとおり報告書を提出いたします。

記

1. 期 間 令和3年2月2日（火）

2. 日 程

令和3年2月2日（火） テーマ① 午前10時～午後1時

テーマ② 午後2時～午後5時

地方議会オンラインセミナー（東京セミナー）

テーマ① 基礎編：住民主体の地域づくりとは

テーマ② 応用編：実践から学ぶ 住民主体を進める場の作り方

3. 参加者 奥村 恭弘

4. 添付資料

別紙のとおり

●地域包括ケアシステムから考える専門家の視点、住民の視点

- ・地域包括ケアシステムの地域づくりの意味
- ・地域を視る2つの視点
- ・見る視点が違うと議題も違ってくる
- ・医療・福祉・行瑛の強みと苦手
- ・地域の強みと苦手
- ・鍵となるのは、人と人との関わり
- ・地域でのつながりが悪環境をふせぐ
- ・仲間と元気サイクルを
- ・2つのアプローチ
- ・専門家の力×住民の力
- ・コミュニティ・アズ・パートナー
- ・地域の状況と専門家と住民が共に調べる
- ・重要な基本的な考え方
- ・診断し、介入するのは、エンパワメントのプロセスのため

●専門家と住民の協力をどう生み出すのか？パートナーシップを考える

- ・COVID-19拡大で問われていること
- ・予防的な活動の難しさ
- ・予防的な行動変容の難しさ
- ・協力とは？
- ・なぜ患者は薬を飲まないのか？
- ・コンプライアンスからコンコーダンスへ
- ・相手にやらせようとしな
- ・コンコーダンス：対話を通じた共同意思決定
- ・見えていること・見えていないこと
- ・課題を遂行する／関係性をつくる
- ・対話の前提は「学びあいたい気持ち」
- ・コンコーダンスを実施するために

●主体的な参画を促すために

- ・地域が動き出すとは？
- ・解決策を急ぐ前に、問いを分かち合う
- ・学び合いながら、循環型で創り出していく
- ・自分でできるへの準備（readiness）が必要
- ・地域づくりは、共に学ぶ場から始まる

□テーマ② 応用編 : 実践から学ぶ 住民主体を進める場の作り方

□内 容

◎専門家主導から住民主体へ

住民が自ら動き出すための専門家とのパートナーシップと場づくり

●ビジョン ・思いのある誰もが動き出せ、新しい仕事を生み出せる社会へ

●ミッション ・日々の暮らしや仕事で、「目の前の課題に気付いた人」が、周りの人たちの力を活かし、協力して解決していく。
・それが実行できる「場づくりのノウハウ」を広げる！
・潜在化している声・力に注目する
・ハードルを下げ、発言しやすい場をつくる
・地域を視る2つの視点
・地域づくりは、共に学ぶ場から始まる

●コロナ時代の地域活動

- ・2020年に問われていること
- ・コロナで活動が止まって・・・
- ・コロナを良いきっかけにできそう
- ・孤立する人をつくらないことが大切！
- ・「聴いてくれる存在」が大切
- ・ウィズコロナの地域の活動
- ・足立区社会福祉協議会広報誌 第61号 (R2年10月)
- ・地域のつながりとオンラインの可能性と活用のコツ
- ・オンラインも組み込んだ地域のつながりをデザインしよう
- ・今年を新しい活動文化づくりの機会に

●住民主体の壁を超えるために

- ・ぶつかりやすい壁

●主体的な動きを促すために

- ・予防的な行動変容の難しさ
- ・自主性と主体性の混同が多い
- ・相手にやらせようとしない
- ・コンコダンス：対話を通じた共同意思決定

- ・自分でできるへの準備 (readiness) が必要

●実践例①「文京ソーシャルイノベーション」

- ・参加を促す協働が求められる
- ・新しい仕事をつくるには？
- ・文京ソーシャルイノベーション・プラットフォーム
- ・地域との出会いから継続する活動へ 3つのステージで成長を支える
- ・地域の中に対話の場をつくる
- ・自分のテーマから、地域に役立つ新しい仕事をつくる
- ・「参加したい気持ち」を守り立てる

●活動・コミュニティの紹介

- ▶「子育て kitchen の活動」
- ▶「文京映画交流クラブの活動」
- ▶「ツリー・アンド・ツリー本郷真砂、さきちゃんちの活動」
- ▶「本郷いきぬき工房の活動」
- ▶「街に舞台に色々な活動が生まれるコミュニティ」
- ▶「女性たちが仕事をきっかけに地域でつながるコミュニティ」
- ▶「高校生と社会人が真剣に向き合って活動するコミュニティ」
- ・地域・組織の人から新しい仕事を生み出すプロセス
- ・地域・組織の人から新しい仕事を生み出すプロセス+コーディネーターの仕事
- ・活動に必要な資本とは？
- ・住民は担い手に結果的になる

●実践例②「大田区六郷助け合いプラットフォーム」

- ・複雑な問題とは？
- ・なぜ連携できないのか？
- ・答えを出さず、話し合い続ける！
- ・答えを出さずの話し合い続ける意味を地域の団体に体験を通じて気づいてもらう
- ・課題の掘り下げ
- ・ひとつの団体だけでは解決が困難な“課題の壁”
- ・話し合いで明らかになったこと
- ・プラットフォームの意味の明確化
- ・一年間、月1回、話し合い続ける
- ・課題を共有し、主体的に行動する
- ・分かち合えるから、つながれる！
- ・話し続けるメリット＝課題と自分の活動意味を見直し続ける

・プラットフォームの役割の拡充へ

●実践例③「狛江市 高齢者の自主活動」

- ・「狛江市 通所型サービス B 立ち上げ支援プログラム」
- ・動いてしまえる階段
- ・何を決めるか、を伝える（活動を決める、続けるコツ、継続できる活動に必要なこと）

●コーディネーターの役割

- ・サービス提供者とコーディネーター
- ・相談できる人って？
- ・地域で声かけ、相談できる関係へ
- ・地域の人と知り合い、話をしよう！
- ・地域の課題解決を進めるために

【所感】

今回の研修は、新型コロナウイルス感染症のまん延により、直接の会場ではなく、Web 会議システムを活用した新しいスタイルでの研修受講となりました。

さて、「住民と行政がパートナーシップ」で進めることが大切である」と云われて随分と年月が経過したものと思います。行政任せ（頼み）だけでなく、住民が積極的に動き、更には行政だけに限らず、「専門家主導から住民主体へ」地域の様々な団体が取り組めることがこれからの重要なスタイルであると考えます。

住民の取り組みには、「目の前の課題に気付いた人」が「周りの人たちの力」を活かし、協力して解決していくこと。そのためにも、実行できる「場づくりのノウハウ」を広げることが大切で、その大本は、「人と人とのつながりが大切である」と再認識致しました。

住民参加への取り組み内容は、新型コロナウイルスまん延の中、人との接し方（コミュニケーションの取り方）に Web 会議システムが活用され、そのひん度も増えており、このことも含めて、それぞれの地域に合ったスタイルへと変化していくものと考えられます。

これから更に、新しい時代に合った取り組みになりますよう、今回の研修にて学んだ内容を草津市のまちづくりに活かせるよう引き続き調査研究を行って参りたいと思います。

（文責 奥村）